

私を変えた先生との出会い

「大丈夫。私があなただを絶対に守るから。」この言葉は当時の私にとって、どれほど心強い言葉だっただろうか。

今から数年前の小学生の時、私は初めて『いじめ』というものを経験した。日頃から口数が少なく、本ばかりを読んでいた私は、ある日突然、暗闇のどん底に突き落とされた。気付けば物はなくなり、教科書は破られ、つままれ、叩かれ、閉じ込められと暴言・暴力は日常的になっていった。私は自分の性格や存在そのものがいけないのだと、毎日考える日々を送っていた。

『いじめ』をしている人たちは皆、「誰にも言うなよ。言ったらどうなるか分かっているよね。」と、口々に言い、私は母親のみならず先生にも相談しなかった。だが、ある日、母が私の何も書かれていない、いや何も書けなかった日記帳から全てを悟った。そして翌日、学校に着いた時に先生に呼ばれた。それまであまり先生に呼ばれることはなかったため、私はとても緊張していた。すると先生は、いきなり私をグューッと抱きしめた。何が何だか分からなかったが、先生のぬくもりはとてもとても温かかった。私は気がつくや涙を流していた。そして先生は、私を抱きしめたまま「大丈夫。これからは私があなただを絶対に守るから。」とおっしゃった。その日を最後に私の生活は一変した。

あれから数年が経ったが、未だに先生のぬくもりは忘れずにいる。そしてあの苦しみも。もしあの時、先生がいなかったら、私は今この世にはいなかったと思う。先生はその翌年、学校を去られ、それ以降会えずにいる。私はいつか先生を探し出し、あの時のお礼を再度述べたいと願っている。そして将来は、人の気持ちを理解できる、人を信じることのできる、人を守ってやれる人間性を持った、先生のような大人になり、『いじめ』で自分のことを見失っている人や苦しんでいる人の力になりたい。先生があの時私の先生でいてくれて本当によかった。

丸山 香織
(大学生)